

## 第49回秋季大会部会シンポジウム 活動報告書

オーガナイザー： 渡邊 哲（京都大学）・山本 徹也（名古屋大学）・  
稲澤 晋（東京農工大学）・長尾 大輔（東北大学）

2017年9月20-22日の3日間、材料界面部会シンポジウム「材料・界面討論会 ～材料創製と界面制御の最先端～」を開催した。口頭発表部門では、招待講演2件を含む32件の発表が行われた。招待講演者として、学側より名古屋大学 松田亮太郎先生を、産側より東レ株式会社 土谷 敦岐様をお招きし、ご講演いただいた。松田先生には、「選択的ガス吸着特性を示すナノポーラス金属錯体の設計と合成」という題目で、近年注目されている多孔性配位高分子（Porous Coordination Polymers; PCPs）を対象に、分子設計を通じた機能制御についてわかりやくご紹介いただいた。土谷様には、「炭素繊維複合材料の近年の研究開発動向」という題目で、炭素繊維と樹脂の複合材料を対象に、用途に応じた材料特性の制御をいかに行ってきたか、そしてそこでの界面の重要性についてお話しいただいた。一般講演は、これまでの部会シンポジウムのコンセプトを受け継ぎ、講演12分、質疑8分という討論を重視するスタイルで実施した。概して、活発な議論が繰り広げられていたと感じており、今後もこのスタイルは継続してくべきと考える。

ポスター部門は、大会二日目（9月21日）の9:30-11:30に実施した。例年は、二日目の午後に実施していたが、今年度は、2つのポスターセッションを同時に実施できないというポスター会場の都合で、運営本部からの要請により、午前の実施とした。スペースは比較的余裕があり、ポスター発表を聴講しやすい会場であったと感じた。発表件数は65件で、そのうち学生が発表する64件の中から優秀ポスター賞を5件、以下の通り選出した。

石崎 貴大（高知高専）、藤原 篤史（京都大）、薮下 翔（名古屋大）、  
田内 敦士（大阪大）、井口 博貴（神戸大）

ポスター審査に当たっては、多くの先生方にご協力をいただいた。この場を借りて御礼申し上げます。ポスターセッション後には、例年通り、軽食を用意した交流会を開催した。ほとんどのポスター発表者と関係教員にご参加いただくことができた。ただ、今年度の会場セッティングの都合で、椅子に座れるようになっていたため、参加者が着席してしまい、学生同士の交流という観点では役割を十分に果たせなかったと感じる。これは来年以降に反省点として引き継ぎたい。

文責：渡邊